**平成２８年度評価結果公表シート**

専修大学松戸幼稚園

平成29年度の教育内容向上を目指して組織的・継続的な運用ができるよう平成28年度の幼稚園評価(自己評価)を全教員で実施した。自己評価は「基本的な点検項目」を集約して「取り組んだ重点項目に対する評価」とした。

**１，本園の教育指針および目標**

建学の精神「報恩奉仕」に基づき, 心身ともに健全で, 豊かな人間性を育てる教育を指針としている。方針に従って, 「親切で思いやりの心」を持ち「健康で明朗闊達」「表現力豊か」な子供を育てることを目標にし, 【言葉と躾の教育】、【情操教育】、【体験教育】を実施している。具体的には

1. 元気に挨拶できる子ども
2. お友達と仲良く遊ぶことのできる子ども
3. 少し我慢のできる子ども　　　　　　　　　　　　　 　　に取り組んでいる。

**２,2016年度重点的に取り組んだ目標・計画**

「つよく　あかるく　のびのびと」をモットーに、教職員間の信頼を深め、慈愛溢れる教育活動を展開していく。また、施設設備の充実を図り、園児の安全・安心を徹底していく。

1 建学の精神である「報恩奉仕」の具体的教育活動の推進

2 園児の人格を尊重する学級経営・園運営の実践

3 園児の安全を守る教育・施設設備の充実

4 保育研究・研修体制の充実

5 保護者ニーズへの対応・広報活動の充実

　○上記を重点項目としているが、細分化した基本的な点検項目として大項目11項目（①～⑪）,それぞれの大項目に小項目があり合計で43項目を自己評価した。それぞれの大項目の平均は

1. 教育の基本方針と組織　4.46点（昨年度は4.53点)、
2. 保育内容の確認　4.28点（昨年度は4.38点）、
3. 保育の内容・実務の確認　4.31点（昨年度は4.38点）、
4. 研修と研究　3.94点（昨年度は3.95点）、
5. 保護者との関係　4.22点（昨年度は4.23点）、
6. 幼稚園機能の拡大　3.81点（昨年度は3.92点）、
7. 安全点検　4.44点（昨年度は4.53点）、
8. 諸法規の遵守　4.49点（昨年度は4.54点）、
9. リスク対応　4.09点（昨年度は4.27点）、
10. 適正な事務処理　4.59点（昨年度は4.63点）、
11. 食事　4.67点（昨年度は4.50点）,

全てを総合した平均を算出すると4.30点（昨年度は4.35点；5点満点）になった。

　　　※平成26年度から幼稚園評価（自己評価）を実施している。経年で評価をグラフにすると次のようになる。

　・最も点数が低い大項目⑥の「幼稚園機能の拡大」については、「子育て支援」の観点から”長期

休業中の預かり保育””未就学児クラスの開設”を検討・論議してきた。幼稚園規模から実現

可能性の高い“夏季休業中の預かり保育”の検討を重ね、29年度から10日間ではあるが実施す

る運びとなった。預かり保育といってもただ遊ばせるだけの内容ではなく体験教室を含む園独

自の内容としたい。運営面では色々課題が出てくると思われるが保護者のニーズに対応すべく

できることから、着実に子育て支援拡大を地域に発信できるようにしていきたい。

**○重点項目に対して**

・教育の基本方針と組織という点では、教育理念や基本方針が明文化され、周知されていることは勿論のこと、各児齢指導計画・各種行事運営・後援会運営・園だより・遊具点検・預かり保育担当・バス乗員担当等が組織的に運営されている。日頃の保育活動に取り入れている。

・保育内容の確認、実務、保護者との関係に関しては、適切な記録の確認から子どもの様子を把

握・評価していく中、教職員間で共通理解・発達の確認をし、子ども・保護者・保育者の信頼

関係がより一層構築できるよう努力していく必要がある。また、行事等の運営の面では相互理

解をより深め組織的な保護者の支援が得られるよう努めていきたい。

　・年度末に4月1日より千葉県自転車条例が発令されることを保護者の皆さまに徹底させていた

だいた。また、幼稚園前道路における車での送迎に関してお願いの文書を配布し、注意を促し

た。日頃の保育活動・避難訓練においても安全に対する意識を高めることに努力している。

　・資質向上のための保育研究・研修は必要である。研修内容の共通理解を含め意見交換することにより最良の指導ができるよう習慣をつけていく。具体的な例を挙げながら有効な指導の仕方を個人的な知識や経験等に頼るだけでなく集団で対処できるようにし、結果として個人が過度の精神的な圧迫を背負うことなく健全な職場の雰囲気が構築できるよう努力していく。また、教育要領改訂の理解を深め具体的な保育活動の意義・目的を明確にする。

　・保護者のニーズを把握し具体化していくことは少子化の時代にあって広報活動に直結する重要な事柄である。平成28年度は預かり保育を17:30まで延長することができ、長期休業中の預かり保育の検討で29年度から実施予定となった。これからも子育て支援の幅が増えるよう努力していきたい。

**３，重点項目の進捗状況**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 　重点 | 進捗 | 取り組み状況 |
| １ | 建学の精神である「報恩奉仕」の具体的教育活動の推進 | A | 教育方針から年間指導計画、月・週・日案を立案し、登・降園を始め朝のお集まりにおける全体の指導、組毎の声掛け、各種行事等の中で浸透していくよう教職員が粘り強く繰り返し指導している。様々な場面で自分と他者との関わりに対する言葉の指導を重ねてきた。特に感謝ができる基本的な心構えや素直に表現する事を重んじている。 |
| ２ | 園児の人格を尊重する学級経営・園運営の実践 | B | 園児に対する個別面談を年度初め・年度末に実施し一人一人に対する保護者・保育者との連携を図っている。言葉と躾の教育、情操教育、体験教育の通常の保育を通して子どもだからという概念から一人の人間として身につけておきたい人格の素養を丁寧に繰り返し指導している。 |
| ３ | 園児の安全を守る教育・施設設備の充実 | A | 毎日の遊具点検をはじめ交通安全の指導も繰り返し実施。各種避難訓練を実施することにより地震をはじめとする災害に対しての心構え・行動を迅速にできるように心がけている。保護者の方も自転車通園の方に千葉県自転車条例の話をし、緊急時における園のルールの浸透を図っている。 |
| ４ | 保育研究・研修体制の充実 | B | 保育研究・研修の日常的な取り組みを実践していかなければならない。保育に年間・月間のテーマを設け実践・検証により資質を高めていかなければならない。そのために日々の保育の現場から具体的な例を挙げながら意見交換し最善の保育ができる集団指導体制を構築したい。必要であればカウンセラーに相談しながら最善の保育に取り組んでいきたい。教育要領の改訂に理解を深めていきたい。 |
| ５ | 保護者ニーズへの対応・広報活動の充実 | B | 保護者のニーズが多様化している。全てのニーズに応えることはできないが、子どもと保護者のバランスを見ながら、より子どもに必要な事柄から実施していきたい。平成29年度から夏休みの預かり保育を10日間実施する事にしたが、課題である未就児教室の開設や子育て支援関連の地域貢献を具体的に実現しなければいけない。 |

※評価の表示方法・・・Ａ：達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：取り組まれているが十分でない　Ｄ：取組が不十分である